

『DVD — ● のリベンジ』

デジタル放送が始まってからというもの、家電量販店などへ行くと、CPRM 対応と書かれた DVD をよく見かけるようになりました。この、CPRM。書かれているものと書かれていないものとは何が違うのでしょうか？

CPRM とは、動画や番組など放送コンテンツの著作権を保護するしくみのことで、デジタル放送の録画制御につかわれています。CPRM の信号は、録画する機器・録画されるメディアどちらにも反応し、CPRM に対応していない録画機器（DVD レコーダーや HDD レコーダー）では録画できません。CPRM 録画機器側が対応していても、録画されるメディアである、DVD ディスク側が CPRM 対応

でないと録画できません。つまり、CPRM 対応とかかかれている DVD はデジタル放送の録画ができる DVD だったのです。そして、つい最近まで、この CPRM 対応の DVD というのは、「DVD-RW」・「DVD-RAM」の 2 種類しかありませんでした。最近まで、というのは、現在はもう 1 種類増えているからです。そう、タイトルからもご察しのとおり、現在は CPRM 対応の DVD-R が販売されています。

『これで、DVD R でもデジタル録画可能だ～～。』

と、メディア代が安上がりになることや、VR モードでの録画が可能になったことに喜ばれる方も多いと思われそうですが、実は落とし穴が存在します。

CPRM 対応の DVD-R は互換性がかなり低いのです。「CPRM 対応 DVD-R」に対応したレコーダ以外の機種で利用すると、録画・再生そのものできないほか、ディスクが使用できなくなったり（データ破損）、取り出せなくなるなどの問題が発生する可能性があるそうです。

VR モードで録画した DVD-R は市販の DVD プレーヤーで再生できません。今後、VR モードでの録画可能な機器などをはじめ再生機能の搭載も進むでしょうが、現在はまだ一般的ではありません。ということは、デジタル放送の録画に CPRM 対応の DVD-R を利用した場合、当分の間は自己録再がメインになってしまいます。

アナログ放送をビデオモードで録画（通常の DVD-R として利用）した場合はほとんどのプレーヤーで再生できます。

とはいえ、コピーワンス制御のおかげで、実質 DVD-R のような使い方になっている DVD-RW・DVD-RAM のことを考えると、安価で気軽に録画できる DVD-R には期待したいところです。

みなさんもお使用になるときは十分に注意してくださいね。

